

教育長 田中 康寛



いよいよ桜の開花が間近となりました。

さて、私の教育長としての任期が今月末をもって満了となり、退任の運びとなりました。5期 15年間にわたり任務を全うできたのは、ひとえに、皆様の支えがあったからであり、深く感謝申し上げます。

本通信は、教育長としての思いや願いを皆さんにお伝えするため、「不易と流行」を表題とし、平成21年10月から発行を開始しました。これまで、「心の眼差し」「而今（じこん）」「乾坤一擲」「CHANGE&CHALLENGE」「日新」「標」「瞳輝く」「『万里一空』と『堅忍不拔』の思いを胸に」と、表題を変えながら144号まで進めてきました。一貫して根底にあるのは、市川の教育で、子どもも大人も心身ともに健康で、生き生きと主体的に生きる力を育みたいということです。私たちは様々な人とのつながりの中で生きています。このため、お互いを知り、認め合えるよう、学校は子どもも教職員も安全に安心して過ごせる場であり、子どもの成長に様々な人が関わるができる環境であること、地域は学んでつながりをつくるができる場であることが必要だと考えています。その手段として、「人をつなぐ 未来へつなぐ 市川の教育」という市川の教育の基本理念を掲げて施策の実現に努めてきました。

振り返ってみますと、着任した平成21年4月は、第1期の「市川市教育振興基本計画」がスタートしたときであり、市川駅南口図書館が開館したのもこの月でした。千葉県初の義務教育学校である「塩浜学園」の開校、全市立園・学校への学校運営協議会の設置、全児童・生徒への学習用端末の配付など、各取組の開始に当たっては様々な困難がありましたが、家庭・学校・地域と教育委員会とが一丸となり、課題を一つずつ乗り越えてきました。これらの達成は、皆さんの多大なるご理解とご協力の賜物と深く感謝しております。

今年1月に策定した「第4期市川市教育振興基本計画」が、4月からスタートし、秋には、市制施行90周年、生涯学習センター30周年を迎えます。このような節目の年に、新教育長へバトンタッチすることになりますので、市川の教育に関わるすべての人がこれまで以上に一丸となり、目指す姿に向かって各々の立場で持てる力を十分に発揮し、取組を前進させていただきたいと思っております。これまでと変わらないお力添えをよろしくお願いいたします。

最後になりますが、15年を振り返ると、言葉にしがたい、ぐっと胸に迫る気持ちがこみあげてきます。その中で、何よりも、これまで支えていただいた多くの方への感謝の気持ちが溢れてきます。心より御礼申し上げます。15年間ありがとうございました。皆さまのご健康と益々のご活躍をお祈りいたします。